

## 「Agile (アジャイル)」

2026・5・20 重枝 一郎

将来、生徒たちが羽ばたく社会は、何かを「決めて」、それを行動に移すことの連続になる。自らの意思をもち、多様な考え方と出会いながらのチャレンジが求められる。そこで、今回は、何かを「決めて」の「**決め方**」について話す。

ところで、そもそも今の社会のことをいったい私がどのくらい語れるのだろうかと思う。社会変化のスピードは世の中の実情を見れば明らかなのだが、そのリアルタイムの体験がない。もちろん今の教師という職業については語れるが、その他のことは語る自信がない。そう考えると、少し怖い気がする。2年前に、この校長研修だよりでAIについて書いた。でも、発行を後回しにしていたら、すでに今出しても意味がないくらいの内容になっていたから廃版にした。(笑)

今、社会はあまりにも加速度的に変化が予想されるため、「計画を立てることが失敗をはらむ」と言われる。確定事項を「決める」より、仮説を立ててアクションしながら先に進むやり方が求められる。

この話は、「2023 Sence of Mission 11 月行動のレポーターを増やせ」でも書いたが、こうした新しい時代を表すキーワードに「**Agile (アジャイル)**」という言葉聞く。「**Agile (アジャイル)**」を直訳すると、機敏な、素早いという意味である。チームにおいて、「**早く失敗し**」「**早く学び**」「**早く成長する**」という意味で使われる。私は、このような挑戦の仕方を「**生産的失敗**」という言い方もする。

このような社会の変化を背景に、学校でも、生徒のキャリア教育や日常の授業、さまざまな活動等を「**Agile (アジャイル)**」の考え方で経験させていく必要性を感じている。

進路選択など、自分の進む道を探すのは大変なことだと思う。その際、「これだ!」と決めつけるのではなく、自分がやってみたいことのビジョンの中から、今の自分がチャレンジしたいこと、関心があることを見つけて、仮説を立てて進むことが大切だと思う。仮説を立てて、学んでみて、違っていたら方向転換すればいい。成長するとまた見える世界が変わる。ビジョンも変わる。そうしたら、また新たな仮説を立ててチャレンジすればいいという考え方である。学校でもそれを繰り返しやる姿勢を習慣化させて、そうした「**決め方**」を会得させるのが大切だと考える。

しかし、失敗を恐れず、チャレンジすることは、実は、なかなか簡単なことではない。そのために、生徒や私たち教師のマインドを変える必要がある。

マインドセットには「硬直型」と「成長型」がある。硬直型マインドセットはチャレンジを恐れ、成長型マインドセットはチャレンジを楽しむことができるというものである。この成長型マインドセットを育むために欠かせないのは、「**心理的安全**」と言われている。失敗について率直に話すとき、罰せられたり、辱められたりすることがなく、チーム自体が人間関係の中で、そのリスクをとることがいいことであるという考えであることが重要になる。

それでも、そういう空気感にならないと思う。だから、チャレンジしている人に対し、圧倒的にリスペクトして寄り添い、「**ナイスチャレンジ!**」と声に出したり、笑顔で返したりすることを増やしていく。

実は、この話は、2021年2学期始業式の校長講話、2023年11月の Sence of Mission で、発信した話である。今の女学院中高にもう一度念押ししたいと思った。当時はきっかけ作りの意味合いだったが、今なら「**マジ!**」である。

追加として、この「**Agile (アジャイル)**」をマインドセットするために、生徒に対して次のような声掛けはどうだろう。

『**さっさとやって、さっさと失敗して、さっさともう1回やることが、成功の秘訣だよ!**』